



発行年月日 2023年6月30日

発行者 日本作業科学研究会 アーカイブ担当

「作ら、さくら」は、日本作業科学研究会ニュースとして、研究会の最新情報等や研究会の活動をまとめて会員に配信し、記録としてHPに掲載してきました。しかし、今年度より最新ニュースや研修会の案内は、タイムリーに情報を会員にお届けするため、メールやSNSにて発信することとなり、「作ら、さくら」は、最新ニュースや研修会の案内の役割を終えることとなりました。年度ごとの研究会の活動のまとめを記録しアーカイブとしての役割は引き続き残し、年1回の発刊をしていきます。第27号は、2022年度(2022年7月1日～2023年6月30日)に開催された、学術大会、3役会、理事会の記録のまとめとなります。

日本作業科学研究会第25回学術大会

<テーマ>

What is Well-Being? ～作業の視点で幸福を考える～

日時:2022年10月22日(土)～10月23日(日)

場所:LIVE配信(ZOOM)および

特別講演1および口述発表はオンデマンド配信にて実施(10月1日(土)～10月23日)

大会長:春原るみ

参加登録期間:2022年6月10日(金)～10月20日

(木)、事前参加登録は9月21日(水)まで

演題登録期間:2022年4月18日(月)～6月24日(金)

1日目:

- ・基調講演(特別コラボ講演)『幸福学×作業科学』
前野隆司(慶応義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長)& 吉川ひろみ(県立広島大学)
- ・事例検討企画『現場で活かそう作業科学』
助言者:近藤知子(杏林大学) 西方浩一(文京学院大学)
事例提供者:三村啓人(諏訪中央病院) 齋藤尚子(北信総合病院)

2日目:

- ・特別講演1『Using occupational concepts to support people during COVID-19-コロナ禍における人々を支援するための作業の概念の活用-』
講師:Lorrae Mynard (Monash University)
- ・特別講演2『コロナ禍における作業的不公正』
講師:高橋香代子(北里大学)
- ・佐藤剛記念講演『国際協力の現場から、気候危機に

対応し持続可能な社会をつくる作業を考える～キーワードはSDGs、脱成長、コモンズ』

吉田美穂(一般社団法人 国際環境協力ネットワーク 理事主任研究員、JICA 独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局 技術顧問)

- ・オンライン懇親会:1日目の最後に参加者と感想を語り合い共有。

2022年度 三役会

第1回

<日時>2022年7月18日

<場所>Zoom

<出席者>近藤、齋藤、山根、坂上、西方

【報告・確認事項】

- 2022-2024年理事の選挙報告について(無投票当選)
理事:近藤知子、渡辺慎介、西方浩一、ボンジェ ペイター、中塚聡、高木雅之、齋藤さわ子、大谷将之、山根慎吾、今井忠則(立候補順)
監事:西野歩、若井亜矢子
- 2021年度 3役・事務局の事業報告について
 - 会則改正案
 - ・4章:役員数、事務局長数の変更(理事会→総会へ)
 - ・その他:すでに理事会にて承認(総会へ)
 - 組織改正:前回までで検討した範囲を確認
- 次年度学術大会開催地
 - ・大阪が開催地、大会長など調整中
- HPリニューアル
 - ・全体のデザイン等のリニューアルの必要性の検討→SNSとHPの役割・機能の範囲や広報戦略も含めて
 - ・リンク、勉強会情報の最新のものかどうかの確認

・HP 目的の見直し

③ 長野学術集会:担当者欠席のため報告なし

【審議事項】

1. 2022 年度事業・予算計画

① 会則改正: 2021 年度で定めた案を総会で審議

② 組織改正: 理事会にて継続審議

③ オンライン研修会・会議用のライセンス契約: 会議費増 (1→3ライセンス)

④ 2022 年度第 1 回理事会・総会までのスケジュール・必要事項

・会員への WEB 総会周知: 8月1日

・理事会: 8月6日 10:00 オンライン

・総会: 9月10日 13:00 オンライン

⑤ その他

・理事会にて: 各班で長期計画で進める必要がある事業およびその予算の見込み

→複数年度で予算を立てることも可

第 2 回

<日時>2022 年 12 月 2 日

<場所>Zoom

<出席者>近藤、齋藤、山根、中塚、西方

【報告・確認事項】

1. 第 25 回学術大会(長野学会)結果報告

1) 参加者登録: 167 名(会員 96 名 非会員 64 名 学生 7 名)→実際の参加者数: 1 日目 141 名、2 日目 130 名 全登録者が学会に参加。

2) 収支: 現在最終確認中だが、余剰金は約 20 万円程度で研究会に入金予定。

3) 次年度総会の準備: スケジュール確認

4) 研究会口座の名義の変更

事務局担当理事が変更となったことから以下に名義変更を実施。

・総合口座(研究会の会費の振り込み先)は坂上元理事→西方理事の名義に変更

・当座預金(研修会の参加費振り込み先)坂上元理事→渡辺理事へ名義に変更

5) 会員数

・2022 年 12 月現在、233 名。OS カフェの案内と同時に、会費の入金の促しがあるためか、会費の入金率良好。

【審議事項】

1. 会計の取りまとめ方の見直し

1) 研修会の予算案: 研修会についての項目の予算立てが不明瞭。来年度より、事前に研究会の研修全体で赤字予算にならないように、各研修会の最小催行人数などを設定し運営する。

・研修会開催時の会議の運営費や運営補助者への謝礼: 研修会ごとではなく、運営補助者への謝礼は上限

5000 円/1 日、会議運営費は 1 人/1h 1000 円を目安に統一する。

・オンライン研修会の参加費: 会員からみて、対面だと人手が必要なことが見てわかるが、オンラインだと対面と比べて運営にかかわる人員が必要ないと一般に考えられるため、運営補助者の役割と人数、参加費の設定を慎重に行うようにする

2. ZOOM 契約

研修会を開催者には Zoom の契約アカウントを持つ大学教員も少なくないことから、研究会の ZOOM 契約は当面 1 つとし、必要に応じて契約数を増やすか様子を見る。

3. 機関誌の在庫

本研究会の機関誌はすでにすべて電子化されているが、旧事務局(坂上元理事)に紙の機関誌在庫あり。廃棄処分の意見もだが、会員からの会費で作成されたものであるため、今後、対面学会にて会員に配布する方向で調整する。

4. 研究会の HP 作成とメンテナンス

学術大会 in 長野の HP は良かったため、作成者の山岸さんに依頼する。

5. 3 役会と理事会の議事録や審議事項等

・今後、データはネットワーク上で共有。理事会、三役それぞれで共有 BOX をつくる。DropBox か Googledrive で理事会でいずれを使用するかを検討。

6. 会費などの支払い

会費の支払いシステムだが、現在はゆうちょダイレクトを使用しているが、他に事務局の仕事の効率化を図り良いサービスがあれば変更を検討。

7. 運営組織の改変

・OS カフェ: 教育から広報ネットワークに移動。

・メーリングリストは過去に、会員ではない人に情報提供していたもの。今後の活用方法は検討する。

・部の下の名称については、機関紙編集以外は「担当」という呼び名とする。機関誌編集は冊子にも名称があるので、「委員会」とするか確認。委員は部員として委嘱状を送る。

8. 理事会開催準備

理事会の日程候補日として 2023 年 1/7(土)の午後、

1/8(日)、1/22(日)、1/28(土)の午前

時間は、10-12 時、13-15 時、15-17 時 調整さんで理事に確認する。

9. 第 27 回学術大会開催地について

・東北への打診

・各理事に、候補地を打診

第 3 回

<日時>2023 年 2 月 12 日

<場所>Zoom

<出席者>近藤、齋藤、中塚、西方

【報告・確認事項】

1. 第 27 回(2024 年度)学術大会開催地

・候補地は、北海道、山形、兵庫などを打診。

【審議事項】

1. 謝金内規(OT 学会資料参照)
日本作業療法士協会の規定を参考にし講師謝礼の決定。
 - ・研究会会員の講師謝礼は適応金額の半額。
 - ・運営補助(当日)は上限 2500 円/hr。
 - ・会議費は1回、上限 1000 円。
2. JSSO 主催以外の団体研修会等の後援内規
 - ・申請方法は郵送はやめてメール(事務局宛)で統一。
 - ・団体と個人で必要な書類を分類
 - ・研究会の HP に掲載。

第4回

<日時>2023年5月16日
<場所>Zoom
<出席者>近藤、齋藤、山根、中塚、西方、渡辺

【報告・確認事項】

1. 第 27 回学会(2024 年度)開催地
西方理事を大会長として埼玉にて開催予定
2. 講師謝礼等に関する内規
研究会 HP に掲載
3. 第 26 回学会(2023 年度)
メーリングリストによる広報実施
4. HP リニューアル
新旧部員により進行中

【審議事項】

1. 2022 年度第 4 回理事会準備
 - 1) 理事会開催日
 - 3 役会にてあげた候補日を理事に参加の可否依頼し決定
 - 2) 理事への活動報告・計画表記入依頼
理事会の日程に合わせて記入期限を決定
 - 3) 理事会内容
以下の中心に報告・審議事項とする
 - ① 前回理事会以降の3役決定事項に関して
 - ② JSSO 主催研修会謝金内規に関して
 - ③ JSSO 以外開催の研修会等の後援内規に関して
 - ④ 2022 年度各部門の活動報告(旧組織体制)(収支決算を含む)第 25 回学術大会結果報告
 - ⑤ 2022 年度予算実行状況
 - ⑥ 2023 年度各部門の活動計画(新組織体制)(予算案を含む)
 - ⑦ 第 26 回学術大会進捗状況
 - ⑧ 2023 年予算案
 - ⑨ 第 27 回学術大会開催地の決定
 - ⑩ 総会までの準備スケジュール
 - ⑪ 総会議案(案)作成

2022 年度 理事会

第 1 回

<日時>2022 年 8 月 6 日
<場所>Zoom
<出席者>近藤、齋藤、山根、中塚、坂上、ボンジェ、高木、港、渡辺、大谷、若井、西方
<配布資料>2022 年度総会議案書案

【報告・確認事項】

1. 選挙結果について
2. 総会準備
 - ・2021 年度会員情報・会計状況について(事務局) * 資料
 - ・2021 年度事業報告について(各班) * 配布資料
3. 第 26 回学術大会:大坂で、大会長を横井氏、副会長を中井氏。
4. 総会までのスケジュール確認

【審議事項】

1. 2022 年度各班での事業・予算計画について(旧委員)
 - ・研究会ニュース:研修会や会議等があれば、随時 HP や SNS に掲載する。年1回、議事録等の記録をまとめたものを発行するものへと位置づけを変更
2. 2022 年予算について
 - ・ZOOM 2ライセンスに変更し増額(45000 円)。
 - ・製本費 450000 円。印刷費は摘要を発行費に変更。
3. 会則改正について(旧委員)(総会議案事項)
4. 会則改正案→承認
5. 組織改正と役割の決定(新委員)
6. 学術部と教育部に分けることについて、実践につなげる研修会であったことから実践研修の名称については今後検討
6. 次の理事会で組織編成
7. 今後2年間の事業計画(予算)について(新委員)
8. 今後の2年間を目安に事業計画を検討。

第2回

<日時>2022 年 9 月 10 日
<場所>Zoom
<出席者>近藤、齋藤、山根、中塚、今井、ボンジェ、高木、大谷、西方
<配布資料:>2022 年度総会議案書案

【審議事項】

1. 2022 年度会長、副会長、事務局担当について
会長:近藤知子, 副会長:齋藤さわ子, 山根信吾, 中塚聡
事務局:西方浩一, 渡辺慎介
2. 組織改正について
4つの部を作成し、委員単位で活動を行う。
OS カフェ:特設委員会から常設部門に移行する。
各部の委員、班の名称は各部担当で検討し理事会にて諮る
3. 役割(班、委員)について

学術部:編集委員:ボンジェ, 今井, 高木, 研究推進:中塚, 近藤
教育部:基礎研修:大谷, 渡辺, 実践研修:齋藤, OSカフェ:中塚

広報・ネットワーク部:ホームページ・メーリングリスト:山根, 大谷, ニュース:齋藤, 国際交流・JOS 書評:近藤, 高木

3. 今後2年間の事業計画について

各部署で計画を立案する

4. その他の検討事項

1) Zoom 契約

請求書払いの方法で1ライセンスの契約方法にする

第3回

<日時>2023年1月23日

<場所>Zoom

<出席者>大谷, 今井, 近藤, 齋藤, 高木, 中塚, 西方, ボンジェ, 山根, 渡辺

【報告・確認事項】

1. 会員数:237名(2023年1月18日現在)

2. 第25回 OS 長野学会報告

- ・参加者登録 167名 会員 非会員
- ・参加者アンケート回収率 50%
- ・グループワークが良かった。

3. 事業中間報告(各事業担当)

4. 事務局移行に関わる事務手続

- ・ゆうちょ銀行の総合口座(会員年会費等)と振替口座(研修会費)に関し、総合が西方、振替は渡辺が管理。ゆうちょダイレクトに切替済。
- ・ゆうちょダイレクト送金(渡辺)
- ・今後、セキュリティ上生体認証が必須となる。これまでのように管理者を数名登録してワンタイムパスワードでは処理できなくなる。現在渡辺が生体認証を登録しているため、講師料等の送金は渡辺が一括で行うことが現実的ではあるが、認証に別方法がないか検討。

5. Zoom 契約

以前は割安で済むクレジット払いで登録していたが、振込契約(年間契約)で申請。年会費が37,000円程と割高になるが運営上やむを得ない。

6. JSSO 紙媒体雑誌のバックナンバー

在庫処理に関しては、大阪学術大会まで保管(坂上)し、大会期間中会員に無料配布。その後の在庫は廃棄を検討。

【審議・検討事項】

1. 理事会資料共有フォルダー設置に関して

理事会共有フォルダを作成し、データを共有し全員が報告事項等を入力する。現在のメール添付は廃止。Google ドライブで共有。

2. 運営組織の確定に関して

提案された組織図で確定

3. 委嘱状上の名称の変更に関して

・組織の名称変更に伴い今後は、各部で活動する会員を部員と呼び、所属する部署の名称で委嘱状送付(教育部 部員)とする。

・機関誌編集委員会査読委員に関しては査読委員として委員会から委嘱する。

・その他の編集に関わる委員については学術部員として研究会から委嘱する。

4. 事業運営に関わる会計

1) 事業費に関して

本来、詳細な活動内容とそれに伴う予算があつて収支報告する。これまでは各委員(研修)で収支状況を見ながら講師料などを設定していた。今後は予算案の作成を詳細に行う。それに伴い、講師料や運営補助費の設定を明確にする必要がある。

2) 講師料、運営費の設定

収益が少ないときには講師料などを縮小したこともある。会員の立場では講師料支出は理解できるが、運営補助費に理解を示せるかどうか懸案事項である。今後3役で検討し、理事会に提案。OT 協会の規程に準じて設定することが現実的。

3) 第27回 OS 学会(2024年度)開催地

開催地として東北、北陸地方が未開催であるため、積極的に開催を依頼

5. 各部門の2年間の事業計画

1) 広報部

ホームページリニューアル、管理者が小笠原さんから山岸さんに交代する。ホームページ謝金(管理費)に関し、ホームページ管理のみならず、作成、引継ぎを円滑に進めるために予算を多めに計上する。

2) 国際交流

- ・国外イベント情報発信。
- ・韓国との交流を目的に、大阪学会に招聘して検討の場を設けることも今後検討。

6. その他

1) 広報部

・メーリングリストの活用:メーリスの活性化を目的に学術大会にてメーリスとの連動企画の実施を考えている。メーリスは会員、非会員も登録可能。メールはあくまでも情報配信で活用。

・Facebook、Twitter 配信について:リツイートに関しては制限なし。個人単位で勉強会等の情報発信ができないものか。研究会公式のFacebookには研究会主催、後援の研修を掲載可。個人レベルの情報はメーリスの活用。

2) 第26回学術大会進捗状況

・大阪学会に関して:総会を6月にオンラインで実施するためこれまでのような昼食時間中の開催は無し。学会長賞を企画。

・基調講演:Moses Ikiugu (University of South Dakota)

・特別講演:いねいぶる 宮崎宏興 氏

・記念講演:県立広島大学 高木雅之 氏

3) 研修企画について

作業的写真研修を企画(小田原悦子氏講師)。広報のため会員等にメール配信を希望。後援申請書が必要であるため、申請後理事で検討決定する。

4) 会員に有益な企画と研究会の後援についての手続き
後援申請→理事の確認→研究会 HP 掲載、研究会メール
での送信、HP Link の掲載など、3役で後援申請に係る書
式、掲載場所などを検討後、理事会で確認。

第4回

<日時>2023年6月19日

<場所>Zoom

<出席者>大谷、今井、近藤、斉藤、高木、中塚、西方、ボ
ンジェ、渡辺

【報告・確認事項】

1. 会員数 255 名
2. 講師・運営費内規
OT 協会規程に則り運用。講師謝金、運営補助費として予
算立て。OS 研究会会員が講師の場合は OT 協会 B 基準
の半額とする。
3. JSSO の後援・共催内規
原則的に 2 週間目までに申請。
4. JSSO 紙媒体雑誌のバックナンバー
前回理事会で承認されたが再確認。バックナンバーは大
阪学会で無料配布。それ以降は廃棄とする。坂上旧理事
に大阪へ郵送してもらうよう依頼。
5. 第 26 回 OS 学会進捗状況
 - ・6 月 15 日に演題登録終了し、14 演題の登録済み。
 - ・事前参加申し込みは 9 月 15 日まで
 - ・海外講師は Moses N. Ikiugu 氏(現地参加であるが、
大阪公立大学のプロジェクトで来日するため、渡航費等
は不要。講師料のみの支払いとなる)
6. 第 27 回 OS 学会開催地(西方)
大会長:西方理事 卒業生を中心とした委員構成の予定。
7. 2022 年度事業最終報告に関して
 - 1) 学術委員会(機関誌編集班、研究推進班、実践につな
げる班、啓発・国際情報班):2022 年度予算が 45 万円
であったが、2022 年度決算は合計 28 万円前後の予定。請
求・支払いを 6 月中にできるよう手配する。そのため 2023
年度予算を 30 万円程に設定する予定。
 - 2) 広報・ネットワーク委員会(HP 担当、研究会ニュース担
当、メーリングリスト担当)
HP 管理者が交代となる。実質 2024 年度 1 月から交代と
なるが 7 月から引継ぎ作業を行う。引継ぎ期間中(7 月～
12 月)の謝金は 2 名分支給する(年間 13 万 2 千円の半額
分を支給)。
※詳細は報告・審議事項資料を確認。

【審議事項】

1. 2023 年度事業・予算計画に関して(各部) ※詳細は審
議・報告事項参照
2. 第 26 回学術大会の講師謝礼について
会員が講師の場合は規程に準じて、非会員が講師の場合
は自由裁量とする。しかし、今大会(第 26 回)はすでに予
算建てしているため、次回大会以降上記内容を採用するよ
うにする。

3. 2023 年度総会に関して

開催日:2023.9.10 10:00 オンライン用とする。

事務局

議案内容

第1号議案 2022 年度事業報告

第2号議案 2022 年度決算報告・監査意見書

第3号議案 2023 年度事業計画及び予算案

第 4 号議案 次期日本作業科学研究会学術大会開催地
の件

4. その他

1) 会員の情報更新作業進行中。

2) 年度開始月について、

現 7 月開始で混乱を来しているため、今後再検討したい。

3) 事務局業務負担軽減について

外部委託、年会費徴収をクレジット引き落とし、研修会参加
費納入方法(Peatix、Paypal 等)の検討。

以上